



part #1.1
日系スーパーの
売り場編



part #1.1-①

●シンガポールには日系のスーパーやデパートが数多い。大型店2店を観察。まずこれは比較的近年開業した「明治屋」。
●大きな売り場面積で、あらゆる食材がそろっている。日本から空輸した新鮮野菜も並ぶ。

part #1.1-②

●サケと焼酎は、入り口に大きな展示台を設けて販売中。
●サケは「白鹿」「真澄」「八海山」「南部美人」「梵」「菊水の辛口」などがありました。
●販売価格は720mlびんで、「真澄」29.90~45.90 SGD、「八海山」39.90~64.90 SGD、「南部美人」46.90 SGDなど。なお、1 SGD (シンガポールドル) は82円くらい (2014年5月現在)。



part #1.1-③

●焼酎は「吉四六」「くろうま」「黒霧島」「白岳」など。紙パック焼酎や、梅酒も売っています。
●価格は720mlびんで、「くろうま」45.90 SGD、「黒霧島」45.90 SGD、「白岳」45.90 SGDなど。



part #1.2
日系スーパーの
売り場編



part #1.2-①
●日系スーパー、2店目。観光ガイドブックにも必ず載っているオーチャードロードの伊勢丹、その地下食料品売り場。
●酒類売り場は、食品売り場ゾーンとは別になっていて、レジも別。日本の蔵元から来た、法被を着たお立ち番も何人かおられました。



part #1.2-③
●焼酎は壺もあるが、紙パックのほうが目に付きました。明治屋にはありませんでしたが、伊勢丹には清酒の紙パックも結構ある。
●もちろん日本ウイスキーも各種あります。「サントリー角」81 SGD、「山崎12年」158 SGD、「余市12年」151 SGDなど。

part #1.2-②
●売り場面積はむしろ狭いが、サケ銘柄数は明治屋より豊富。
●日本名門酒会のステッカーをはった銘柄は「一ノ蔵」「太平山」「浦霞」「上善水如」「小鼓」「男山」など。
●灘・伏見銘柄では「菊正宗」「玉乃光」「白鹿」「黄桜」「松竹梅」「大関」など。ほかにも地酒銘柄多数がありました。





part #2
日本ビール編

part #2-①

- 明治屋で日本ビールを観察。大手4銘柄のほか、オリオンビールもある。
- 小びんの価格は「キリン一番」3.35 SGD、「アサヒスーパードライ」4.10 SGD、「オリオン」4.25 SGDなど。因みに「ハイネケン」は4.20 SGD、「タイガー・ラガー」が4.00 SGD。



part #2-②

- びんの裏ラベル観察。左上から、キリン一番は日本製（334mlではなく330mlの輸出モデル）で輸入代理店はAPB、サッポロはベトナム製（330ml）、アサヒスーパードライは日本製（334ml）なのですぐわかる。因みにハイネケン（330ml）はシンガポールのAPB製。
- 注：APBIは、アジアパシフィックブルワリーズ、銘柄は「タイガー」でシンガポール最大のビールメーカー。2012年、キリンなどと競り合った末、オランダのハイネケンが傘下におさめた。
- 缶ビールは、キリン、アサヒは日本国内仕様（350ml）。サッポロ（330ml）は「under supervision of Sapporo」とあるが、委託先企業名の記載なし。



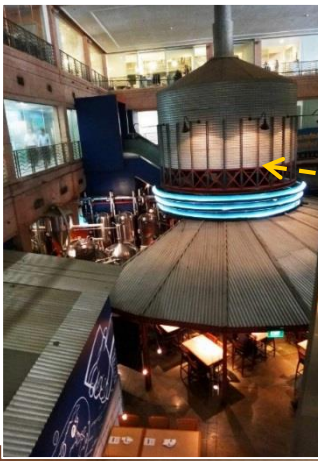
part #2-③

- スーパーにはなかったけれど、日本食レストランには「サントリー」を出す店が多い。
- ホテルの部屋の冷蔵庫は、タイガー、ハイネケン、アサヒの3種。
- オーストラリア製のキリン（ピンボケで恐縮ですが中央の緑の壘、「恵み」という銘柄、ライオン社製）をおいている料飲店もありました。





part #3
クラフトビール編



part #3-①

- シンガポールのクラフトビールといえば「ブリューワークズ-Brewerkz」。シンガポール初のクラフトビールで、1997年創業。ツーリストは必ず訪れる、クラークキーにある。
- シンガポールに来るたび立ち寄るが、いつも美味しい、いつも繁盛している。今では直営店が3つ、壺詰めや樽の外販もしている。
- 私のブリューワークズTシャツコレクション：2005年頃（白）、2010年頃（黒）、そして今年買った2014年（濃い茶色）。



part #3-②

- 明治屋のクラフトビールコーナーで日本の地ビールを観察。常陸野ネストビールが12種！（7.50 SGD～8.60 SGD）、小江戸ビールが4種（7.50 SGD～9.95 SGD）、銀河高原ビール（8.20 SGD）、金シャチビール3種（7.90 SGD～8.90 SGD）。缶では、ヤッホー5種。



part #3-③

- シンガポールは世界の流行に敏感。驚いたことにクラフトビールの専門店があった。
- アメリカ製を中心に、200種類ちかくおいている。（日本地ビールはなかった。）

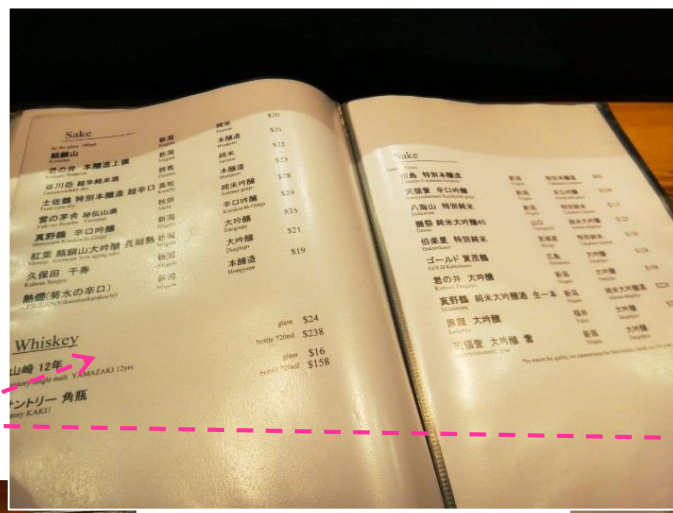




part #4
日本料理店編

part #4-①
●狭い国土に日本料理店が現在約1,000店もあり、さらに増加中。「ショッピングモールには必ず日本食がある」といい。欧米や韓国・台湾に比べ、「日本人経営の店が多い」「本格的和食の店が多い」といった特徴があるように感じます。

part #4-②
●シンガポリアンのサケの飲み方にも興味があるが、今回は日本人客比率が高い店、2軒でサケ消費を観察。(届け出ている在留邦人だけで2万7,000人もいる。日本人需要も大きいだろう。)
●1軒目は「銀座黒尊」。日本の魚や和牛を使った料理は、まるで銀座。当方は「麒麟山」「菊水の辛口」「久保田」などを美味しくいただきました。メニューを拡大すれば価格が見えます。
●店内では「瀬祭」の720mlびん (125 SGD) をオーダーしているテーブルが二つもあってびっくり。なお、ボトル (720mlびん) で一番高いのは「黒龍」の285 SGD。



part #4-③
●2軒目は「HAN-はん」、食道楽の大阪浪速をフィーチャーした和食の店。お任せ串カツがうまい。料理人は日本人ですが、オーナーは韓国人とのこと。
●「手取川」「玉乃光」「八海山」などを美味しく飲みました。なお、こちらのお店の「黒龍」のボトル (720mlびん) は350 SGD。



part #4-④
●2軒以外のスナップ写真。
●オープンエアの居酒屋、「Sake Bar & Shop」の雑誌広告、酒樽を飾ったお店。サケ市場はさらに広がると思います。

